

令和6年 稲作情報 振り返り号

※この資料は、県ホームページでも公開しています。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36250a/inasakugijyutujyohou.html>



南会津農林事務所農業振興普及部	Tel 0241-62-5262
南郷普及所	Tel 0241-72-2243
J A会津よつば田島営農経済センター	Tel 0241-63-1172
南郷営農経済センター	Tel 0241-72-2554
下郷資材センター	Tel 0241-69-1088
只見資材センター	Tel 0241-84-2214

チェックポイント

令和6年の稲作を振り返り、令和7年に活かしましょう。

- 1 気象の変化に耐える土づくりを行いましょ。
- 2 いもち病対策は「予防」が鉄則です。
- 3 斑点米カメムシ類の薬剤防除は2回行いましょう。
- 4 適期刈取を心がけ、刈り遅れないようにしましょ。

1 令和6年について

(1) 気象経過

栽培期間を通して気温が高く推移しました。また、7月1半旬、3半旬、8月2～4半旬、9月4半旬の降水量が多くなりました。

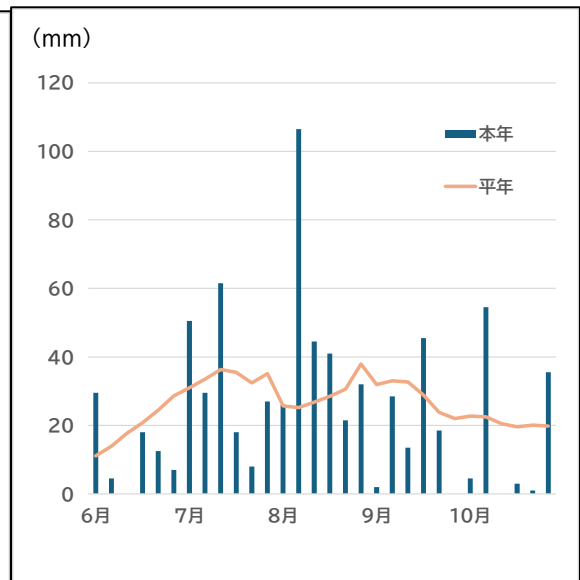
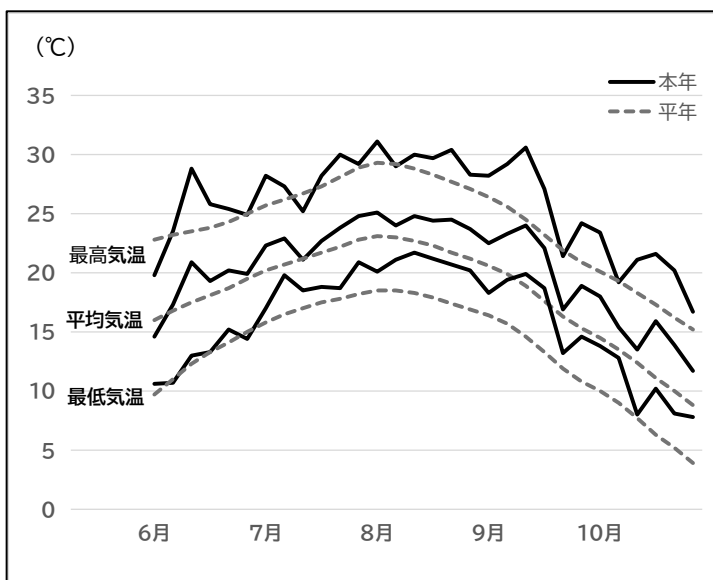


図1 気温 (アメダス田島 半旬別)
(平年値：1991～2020年の平均値)

図2 降水量 (アメダス田島 半旬別)
(平年値：1991～2020年の平均値)

(2) 生育の特徴について

- ★生育は順調でした。出穂期、成熟期は平年より早まりました。(表1)
- ★7月上旬からいもち病が感染しやすい気象条件(感染好適条件)が続き、7月中旬頃から**葉いもちが確認されました**。また、出穂期前後も降雨があり、穂いもちにつながったほ場もありました。(表2、図3、図4)
- ★7月の降雨により中干しが十分に実施できなかったことや、平年より稈長が長く、9月にまとまった降雨があったことから、例年に比べて倒伏が多くなりました。
- ★南会津地方の1等米比率は90.0%(会津よつば農業協同組合 令和7年1月23日時点 前年差+15.3%、平年差+6.6%)でした。主な落等要因は**斑点米カメムシ類による着色粒**や白未熟粒です。

表1 作柄判定ほの出穂期と成熟期(令和6年)

品種(場所)	出穂期	成熟期
ひとめぼれ(南会津町)	7/31 (-6)	9/10 (-9)
里山のつぶ(下郷町)	8/6 (±0)	9/15 (-7)
コシヒカリ(只見町)	8/6 (-4)	9/15 (-5)

※括弧内は平年値(R元年~R5年の5カ年)との差

会津の他地域に比べ、感染好適条件と判定された日数が多い!

表2 地点別イネ葉いもち感染好適条件と判定された日数(令和6年7月)

地点	喜多方	西会津	猪苗代	若松	金山	只見	南郷	田島
令和6年7月1日~31日のうち感染好適条件と判定された日数	4	2	5	3	4	9	8	9

(福島県病害虫防除所 HP BLASTAM より作成)

BLASTAM とは

- BLASTAMは、気温、降水量、風速、日照時間のデータから、いもち病が感染しやすい気象条件(感染好適条件)となったかどうかを判定しています。
- 感染好適条件と判定された日が出現してから7~10日後に葉いもちが発生することが予想されます。

BLASTAMはこちらから確認することができます。



(福島県病害虫防除所)



いもち病の病斑

穂いもちが発生している株



図3 葉いもち(左)
図4 穂いもち(右)

2 令和7年の対策について

(1) 土づくりについて

気象の変化に耐える土づくりをしましょう。(令和6年産米は価格が大きく上昇しました。これを活用して土壌改良資材を購入・施用し、土づくりに努めることで、**低温や高温といった気象の影響に備えましょう。**) また、稲わらは持ち出さず、すき込みを実施しましょう。(カリの補給源となり、放射性セシウムの吸収抑制にもつながります。)

以下は土壌改良資材の例です。

資材名	成分						
	リン酸	カリ	苦土	マンガン	ケイ酸	鉄 (含有成分)	アルカリ分
田んぼマスター	4%	10%	2%	1%	14%	10%	
ケイカリンバリュー	8%	2%	3%	0.7%	15%	6%	24%
苦土名人	5%	3%	12%	1%	17%	6%	32%

(2) いもち病の予防について

止葉や止葉近くに発生した葉いもちは、穂いもちにつながります。そのため、葉いもちを発生させないことが鉄則です。

ポイント

田植え時に使用した箱施用剤の効果の持続期間を確認し、効果が切れる前に、予防剤を施用しましょう。

★いもち病以外の病害にも注意しましょう！

病害が発生した場合、防除しないで放置すると、翌年以降菌の密度が高まり、病害が発生しやすくなります。発生状況を見て、必要に応じて防除しましょう。

病害名	主な感染源
稲こうじ病	土壌表面に落下した菌
ごま葉枯病	被害わらや籾の表面に存在する菌
紋枯病	前年度の被害株に存在する菌

(3) 斑点米カメムシ類の防除について

斑点米カメムシ類の防除は、**耕種的防除**と**薬剤防除**です。

【耕種的防除】

畦畔など水田周辺の除草は**出穂 10 日前までに**終了させます。除草の終了時期を見極めるために、幼穂長から出穂期を予測します。

【薬剤防除】

南会津地域は、これまでカスミカメムシ類（アカスジカスミカメやアカヒゲホソミドリカスミカメ）が主に確認されていましたが、近年ホソハリカメムシという比較的大型のカメムシが確認されています。

小型、大型両方のカメムシを防除するために**散布剤による薬剤防除は2回実施**します。

ポイント

薬剤防除時期 1回目：乳熟期（出穂後7～10日）
2回目：1回目の7日後頃（出穂後14～17日）

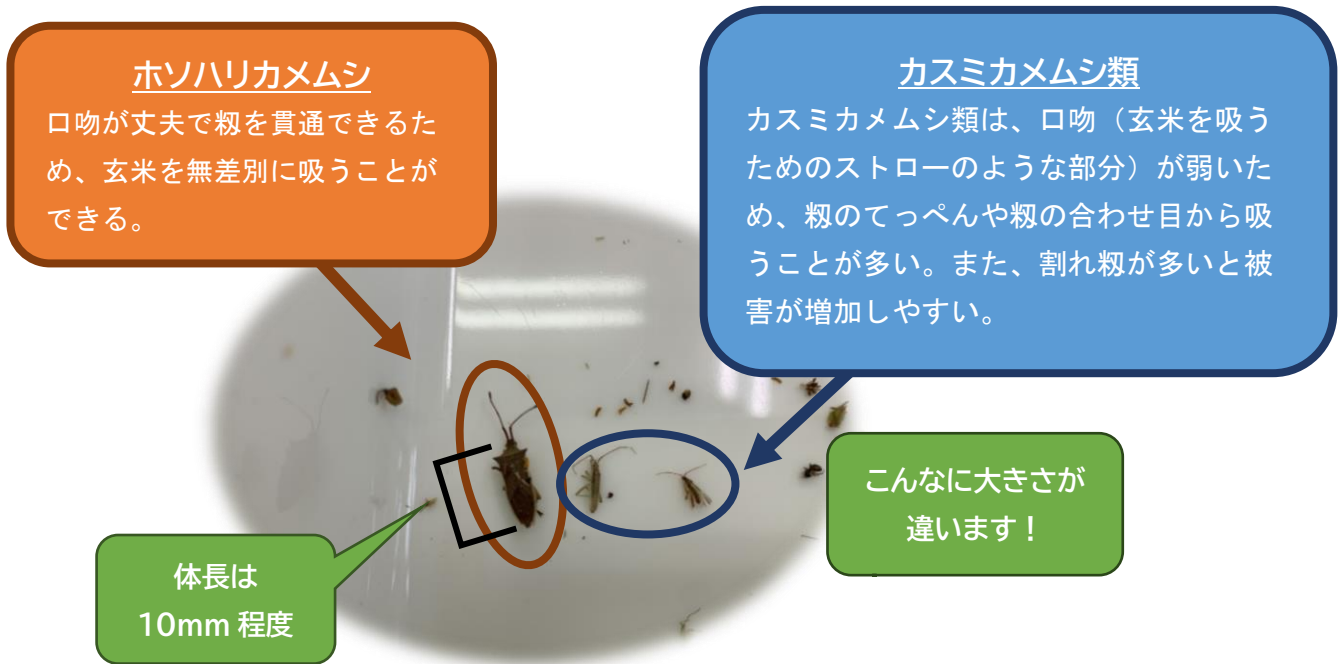


図5 南会津で捕獲した斑点米カメムシ類（令和6年7月）

(4)適期刈取について

令和6年は、出穂期以降高温で推移し、登熟が早まりました。出穂後は、積算気温(出穂期の翌日以降の日平均気温を積算した気温)を確認し、適期刈取に努めましょう。また、余裕を持って刈取・乾燥に向けた準備を進めましょう。

表3 作柄判定ほの刈取時期目安（令和6年の参考例）

品種名（場所）	出穂期	刈取時期の目安となる積算気温	刈取適期	刈取晩限 ※積算気温 1200℃
ひとめぼれ(南会津町)	7/31	950℃	9/9	9/20
里山のつぶ（下郷町）	8/6	1000℃	9/18	9/28
コシヒカリ（只見町）	8/6	1000℃	9/16	9/25

みどり認定を取得しませんか？

化学肥料・農薬の使用低減や温室効果ガス排出量の削減など環境にやさしい農業に取り組む農業者の認定制度です。

認定を受けるメリット

- 設備投資の際の税制優遇、
- 国庫補助金の採択における優遇など

詳しくはこちら→

